

ALINCO

PS1138
FNH+EE
Copyright Alinco,Inc.

デジタル簡易無線機（総務省技術基準適合品）
AMBE方式 無線局種別コード：3R/3T（登録局）

DJ-DPS70E

ユーザーガイド

アルインコデジタルトランシーバーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機の運用には資格が不要ですが、使用前に総務省総合通信局に登録の手続きをする必要があり、怠ると罰せられます。本書は本製品をお使いになる方向けの簡易ガイドです。登録手続きや機能の設定をされる無線機管理者の方は詳細説明書をお読みください。右の二次元コードからアクセスしてお読みいただけます。本書は運用中、使用者が参照しやすい場所に保管されることをお勧めします。また補足シートや正誤表などが入っている場合は本書とあわせて保管してください。

[重要]

本書の注意書きは使用者が安全にお使いになるためのものです。管理者が遵守すべき内容は一部含まれていません。管理者は必ず詳細説明書の注意書きもお読みください。

詳細取扱説明書

ALINCO

アルインコ株式会社 電子事業部

支店・営業所と電子サービスセンター(SC)

東京 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル 14F TEL.03-3278-5888
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦2丁目2番24号 いちご丸の内サウスビル 3F TEL.052-212-0541
大阪 / SC 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル 13F TEL.06-7636-2361
福岡 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号 エコビル 2F TEL.092-473-8034

無線・電源 機器のアフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店またはフリーダイヤル ☎ 0120-464-007

全国どこからでも無料でお客様のご相談窓口につながります。

受付時間：月曜～金曜 AM10：12 / PM 1-5（土日祝日と休業日を除く）

Eメール：https://www.alinco.co.jp/>事業案内>電子事業部>お問い合わせ

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。本文中ではTM、®などのマークを省略しています。許可なく複製、複写を禁じます。本機は日本国内専用モデルです。電波行政の違いから海外ではお使いになれません。This product is for use only in Japan due to differences of radio administrations.

使用上のご注意

(必ずお読みください)

■電波法上のご注意

●本機はデジタル簡易無線登録局です。使用するにはあらかじめ、登録申請や開設届の提出が必要になります。

●他局の通信を妨害したり、傍受した内容を他に漏らしたり、傍受した内容を無断で使用することは法律で固く禁じられており、違反すると罰せられます。

●本機は日本国の領海・領空を含む陸上、領海と接続水域、及び排他的経済水域内でお使いになります。上空での使用は違法で罰せられます。規格の違いから、海外では使えません。

●届け出た住所やお客様の名前が変わったり、廃局したり、他人への貸し出しをするときも届け出が必要です。詳しくは管轄の総合通信局におたずねください。

■使用上のご注意

●航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、病院や医療介護施設、無線中継所など無線機器の使用が制限されている場所で使うと罰せられます。

●本機を複数台でご利用いただく場合、至近距離（10m程度が目安）で同時に通信しないでください。異なるチャンネル同士であっても、強い電波が影響し合って通話ができませんことがあります。

●本機を分解、改造したり、本体背面に貼り付けてある証明ラベルを剥がして使用することは法律で固く禁じられています。

●通信のできる距離は周囲の状況によって大きく異なります。本機に採用されている電波は直進性が高く、間に構造物や地形などの障害物があると通信できる距離が短くなります。

●本体背面及び上面に貼られている黒いシールは剥がさないでください。防水性能を維持できなくなります。

●本機の秘話機能は第三者に通信内容が聞かれる可能性を低くするものであり、無線の性質上、通信の秘密性を保証するものではありません。

●この製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元及び販売元はその責任を負うものではありません。

●この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合はいかなる誤動作・不具合が生じても製造元及び販売元はその責任を負うものではありません。

●指定以外のオプションや他社のアクセサリ製品を接続しないでください。故障の原因となります。特にアンテナは指定のもの以外を使用すると電波法に違反します。

●本機の故障、電波環境や使用場所の状況などから通信できなかったことで発生した、逸失利益に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

■トランシーバー本体の取扱いについて

●直射日光が当たる場所、ヒーターの吹き出し口、調理台、ストーブなど熱源の近くや温度が高くなる場所には、季節を問わず絶対に放置しないでください。変形、変色、発熱、火災の原因となります。特にLi-ionバッテリーパックは発火の危険があります。

●本製品はガス及び発破現場の近くでは使わないでください。防爆仕様ではありません。静電気が発生して引火、爆発のおそれがあります。

●長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源を切り、バッテリーを取り外し、充電器をご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。

●ベルトクリップは本体の機または背中に装着して、イヤホンマイクのケーブルも余分な長さを束ねて固定してください。かかんだときにマイクプラグやアンテナにストレブスが掛かったり、ケーブル類を引っ掛けたりすると故障の原因となります。

●アクセサリを使わないときはアクセサリキャップをねじで閉めてください。カバーが不十分だと防水機能が発揮されなかったり、異物が無線機内部に入りやすくなったりして故障の原因になります。

●無線機の状態に異常があるとエラー表示が出ます。故障を示すエラー表示もあります。その際は、点検・修理が必要になりますので、「アフターサービスについて」をご覧ください。

●採用している防水パッキンなどの部品には寿命があります。メーカーによるIP68 相当の耐塵防水性能の保証期間は同梱の保証書と同じです。外郭保護性能のメンテナンスが必要な場合は、お買い上げの販売店または弊社にお問い合わせください。

- 水がSP/MIC端子から入らないよう、マイク類を使用しない場合は防水キャップを閉めてご使用ください。外郭保護には条件があります。
- 磁気カード類を無線機に近づけないでください。電磁波の影響でデータが消去される可能性があります。補償いたしかねますので、ご注意ください。

- 充電器の取扱いについて

●ACアダプターはAC100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●充電器のACプラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

●ぬれた手で充電器のACアダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電や故障の原因となります。

●充電器やACアダプターの刃に、ホコリが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

●トラッキング現象による火災を防ぐため、コンセント周りは定期的に清掃してください。

●充電器のACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。断線の原因となり、火災・感電・故障する的原因となることがあります。

●熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

- バッテリーパックの使用上の注意について

●指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、直ちに充電を中止してください。充電をつづけると、発煙や発火を起こす危険性があります。

●バッテリーパックは消耗品で、製品保証の対象ではありません。規定の時間充電しても使用時間が著しく短くなった場合は寿命です。Li-ionバッテリーはこの状態で使用を続けると、発煙や発火のリスクがあります。

●バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や、バッテリーの発熱による火傷の原因となることがあります。

●無線機本体の電源を入れた状態で、指定時間以上充電をしないでください。繰り返し行うことにより、発煙や発火の原因となります。

●バッテリーパックの改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱・破裂などの可能性もあり、大変危険です。

●電池を持ち運んだり保管する場合は、必ず1個ずつビニール袋にいれたり布で包むなどしてショートしないようにしてください。

●廃棄のため電池類を保管する場合は必ず端子部分にセロテープを貼るなどしてショートしないようにしてください。

- 保守

●本体や充電器のケースは開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。

●お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源を切り、バッテリーパックを取り外し、充電器をご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。

●汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質するおそれがあります。

- Warning

This product is permitted to use within Japanese territory and territorial-water only. Aviation use is strictly prohibited. A radio operator license is NOT required but a registration to authority is mandatory prior to use. Registration instruction is included. Misuse violates the Radio Law of Japan and shall be subject to fine or punishment.

The AMBE+2™ voice compression software included in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. The user of this software is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the object code, or in any other way convert the object code into a human-readable form. US Patent Nos. : #8,595,002, #8,359,197, #8,200,497, and #6,912,495.

付属品一覧

本製品には以下のものが付属しています。ご使用前に確認してください。不足がありましたら、まず販売店にご相談ください。

- ☐ 本体

☐ Li-ion バッテリーパック
- A仕様：EBP-198(7.2V 2200mAh)

B仕様：EBP-199(7.2V 3200mAh)

- ☐ シングル充電スタンド EDC-326R

☐ ACアダプター EDC-215

☐ ペルトクリップ EBC-46 ビス2本付

☐ ハンドストラップ BB0009Z

☐ ミドルアンテナ EA-247

☐ ユーザーガイド

☐ 申請書類一式

☐ 保証書

- 注意

●保証書に購入の日付が記載されていないときは、レシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となりますので、ご注意ください。

●設置や取付けに使用するネジは、付属または指定のものをお使いください。

アンテナの取付け、取外しの方法

アンテナの根元を持って時計方向（右）に回転が止まるまで回します。外すときは反時計方向（左）に回します。無線機側のアンテナコネクターはSMA-J、アンテナ側はSMA-Pです。

- 注意

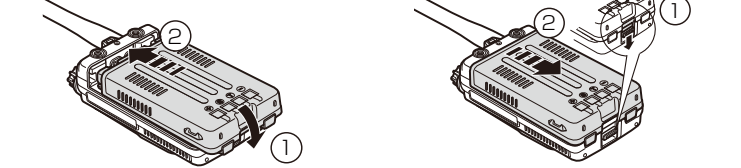
本機に接続できるアンテナは、本機の技術基準適合証明を受ける際にあらかじめ弊社が届け出をした形状と利得のアンテナに限られます。新しく発売される市販品には対応しない場合があります。アンテナについては弊社 HP の本機の製品紹介ページでご説明しています。

バッテリーパックの取付け、取外しの方法

- 取付け

バッテリーパックを本体のツメに合わせ、矢印の方向に押し込んでしっかりと固定します。ロックレバーが固定されているか確認します。
- 取外し

本体のロックレバーを下げてバッテリーパックをスライドさせて取り外します。



バッテリーパックの充電

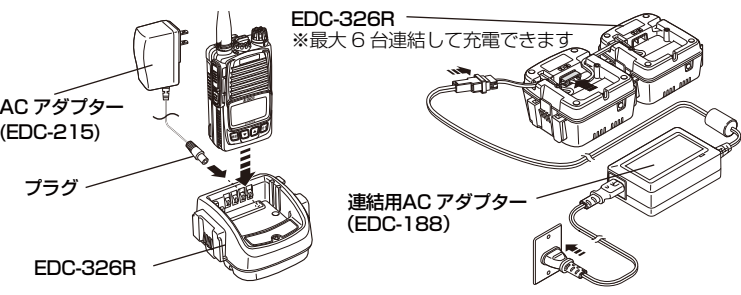
- 注意

●バッテリーパックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、フル充電してからお使いください。

●本機専用の AC アダプターと充電スタンド以外の使用は危険です。絶対におやめください。

●長時間充電したままにしておくと、バッテリーパックを劣化させることがあります。（過充電）

●バッテリーパック及び充電器の充電端子はときどき乾いた綿棒などで清掃してください。汚れていると接触不良の原因となります。（この際に充電端子を変形させないようにご注意ください。）



充電スタンドと AC アダプターを図のように接続してバッテリーパックを充電します。充電スタンドのランプが赤色に点灯し、充電が完了するとランプが緑色になります。

- 参考

●Li-ionバッテリーパックの保存で最も劣化しやすいのは放電状態、次に満充電状態です。長期保存するときは表示の電池マークが1目盛減っているのを目安にし、本体から外して乾燥した冷暗所に保管してください。1か月を目安に本体に装着して状態を確認、電池マークが空になったら1時間程度補充充電してください。

●Li-ionバッテリーパックは使用・保存状態にかかわらず、数年で劣化する性質を持っており、特に長期使用は発熱、発火の危険が高くなります。3年を目安、長くても5年以内に新品にご交換ください。

●充電スタンドのランプが赤色に点滅した場合は正常に充電が完了していません。無線機の電源が入っている場合は電源を切って充電するか、バッテリーパックを無線機から外して単体で充電してください。

●非常時の備蓄用などでバッテリーパックを装着した状態で長期保管するときは、週に一度は本体から外して液漏れや放電していないことを確かめてください。待機電流があるためバッテリーパックは徐々に放電します。

本体の名称と動作

- 本体

インジケーター

アンテナ

PTT キー

マイク

短縮キー

ディスプレイ

キーボード

ノイズマイク

SP/MIC 端子

電源 / 音量ツマミ

名称	機能
PTT キー	押すと送信します。離すと受信待受状態に戻ります。
短縮キー	よく使う機能を割り当てることができます。
インジケーター	緑点灯：受信中 赤点灯：送信中 水色点滅：短縮キーで音量固定中 白フラッシュ（赤または緑点灯中）：緊急通報送信または受信 黄フラッシュ：電池電圧低下 紫フラッシュ：イヤホン断線検出 青フラッシュ：呼び出しあり（ベル機能動作時）/未読メッセージあり
機能キー	押すとセットモードになります。項目の設定にも使います。
戻るキー	セットモードの操作に使います。個別通信時には個別→グループ→全局と通信相手を切り替えます。長押しでキーロック設定 / 解除ができます。
▼/▲キー	チャンネル番号、各設定項目の UP/DOWN

■ディスプレイ表示

		説明
①	電波強度アイコン	受信した電波のレベルに応じて 4 段階に点灯します。送信時には別の送信アイコンが表示されます。
②	5W	送信出力レベルを表示します。
③	着信ベルアイコン	着信があったことを知らせるベル機能設定時に点灯します。
④	秘話アイコン	秘話通信設定時に点灯します。
⑤	子機アイコン	子機間通話禁止機能で子機設定時に点灯します。
⑥	キーロックアイコン	キーロック動作時に点灯します。
⑦	電池残量アイコン	バッテリー残量を表示します。
⑧	録音データアイコン	未聴の録音データがあるときに点灯します。
⑨	メッセージアイコン	未読のショートメッセージがあるときに点灯します。
⑩	コールバックアイコン	コールバック機能設定時に点灯します。
⑪	VOXアイコン	VOX 機能設定時に点灯します。
⑫	オートパワーオフアイコン	オートパワーオフ機能設定時に点灯します。
⑬	プライベートチャンネルアイコン	プライベートチャンネル機能動作時に点灯します。
⑭	セーブアイコン	バッテリーセーブ機能設定時に点灯します。
⑮	CH 01	送信・受信チャンネル番号（周波数）や各設定内容を表示します。
⑯	UC : OFF	ユーザーコードや自局 ID、グループを表示します。

操作する前に必ずお読みください

- 電波法について

全てのデジタル簡易無線登録局には電波法に基づく下記の制限が設けられています。

●キャリアセンス

混信や妨害を防止するため、使用中のチャンネルでは送信をさせない機能です。送信操作してもディスプレイに「CH使用中」と表示されます。受信を示すアンテナアイコンが消えるまで待つか、別の空きチャンネルを探してください。

●タイムアウトタイマー（送信時間制限）

1回の通信で連続して送信できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。時間を超えると強制的に送信解除され、そのあと1分間は送信できなくなります。Aさんが5分間話し続けるだけでなく、AさんとBさんが間を置かずにてきばき通話しているのも1回の通信とみなされます。応答するまでに3秒以上の間を取るとタイマーはリセットされます。初期設定では3分経つと残り時間が表示され、時間制限の30秒前にビビビ、5秒前にピー音で警告します。

- 通信の互換性について

本機の音声のデジタル化技術（コーデック）はAMBE+2™方式です。他社のデジタル簡易無線登録局ともチャンネルを合わせればユーザーコードと32,767通りの秘話を使って通話できます。RACLWI方式とは通話できません。個別呼び出しや各社独自の技術を用いた機能はメーカーが違うと動作しません。

- ボタン(キー)の押し方

正しく押さないと違う動作をします。

●本書の説明でキーを「押します」とは、押した後すぐに指を離すことを指します。

●「長く押す」「長押しする」とは機能が動作するまで押し続けることを指します。長押しで思わぬ動作をしたら、もう一度長押しすると元に戻ることがほとんどです。

- 呼び出しチャンネル

15CHは呼び出し専用で、相手が応答してきたら別のチャンネルに移って通信します。ここで通話しているとの呼び出しを妨げるのでトラブルになります。また、ユーザーコードや個別呼び出し設定は無効になります。通話ができないときは15CHに移って試してください。ここで通話ができれば設定間違いが原因です。

- 外郭保護性能について

本製品は正しく付属品を装着していれば、特定の条件でベビーパウダー状のほこりが内部に入らず、水深1.5 mに30分浸けても内部に水が入らないIP68相当の防塵・防浸です。但し、防水キャップなどのユーザーが開閉する部分からの異物浸入は製品保証の対象外です。製品の保証期間を超えると部品の経年劣化による性能低下が起こりえるためご注意ください。

電源のオンオフ/音量・CH番号の設定

■ 電源のオンオフ

電源 / 音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。電源を切るときは反時計周りにカチッと音がするまで回すと表示が消えます。

■ 音量の調整

電源を入れてからツマミを回すと音量が調整できます。時計方向で大きくなり、反対に回すと小さくなります。音声ガイドでレベルを案内するので、この音声を目安に適切な音量に調整してください。イヤホン使用時は音量を最小にしてから、ゆっくり音量を上げてください。

■ チャンネル番号の設定

待受画面で「▼/▲」キーを押し、交信相手と同じチャンネルを選択します。キーを押し続けると連続してチャンネルが切替わります。CH15は呼び出し専用です。通話するときとは別のCHに移動します。

注意	CH26～30とCH71～82はデータ通信での使用が推奨されています。音声での通話はお控えください。
-----------	--

通話する

■ 受信する

信号を受信すると、インジケーターが緑色に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイのアンテナアイコンが表示されます。信号の強さやユーザーコードなど条件を満たすと音声が入聞こえます。 個別通信のときは相手局の個別IDが表示されます。

注意	インバーター内蔵の電気製品 (LED 照明、DC-AC インバーターなどの車載機器) の近くではノイズが発生して、受信障害になることがあります。
-----------	--

■ 送信する

「PTT」キーを押すと、インジケーターが赤色に点灯し送信します。「PTT」キーを押したままで、マイクと口元は5cmほど離して、通常の声量で話します。「PTT」キーを離すと受信待受状態に戻ります。デジタル無線の性質上、「PTT」キーを押してすぐ話し出すと初めの言葉に「頭切れ」が起こりますので、一呼吸置いてから話そうに心掛けてください。

注意	- マイクに向かって話するとき、声が大きすぎたり口元が近すぎたりすると歪み、声が小さいと相手が聞き取れなくなります。 - 本機は防水を施すため、内蔵マイクの手前に特殊な布製素材を装着しています。このため、内蔵マイクを使用したときと外部マイクなどのアクセサリを使用したときで若干音質が変わって聞こえる場合がありますが、異常ではありません。 - マイク穴をステッカーやラベルを貼ったり、手や指でふさがないでください。声を拾わなくなります。
-----------	---

セットモード

本機の機能を使ったり、用途や好みに合わせてカスタマイズするための基本操作です。業務用途ではあらかじめ販売店がプログラムして納品することがあります。本書の説明と異なることがあるときは販売店にご相談ください。めったに変更することがない項目を集めた拡張セットモードもあります。セットモード操作をするときは必ず詳細説明書も参照ください。用途に合っていないと思うように通信できなくなります。

■ 通常のセットモード

- 待受画面で「機能」キーを押すと「セットモード」と「通信設定」のような項目（メニュー）が表示されます。
- 「▼/▲」キーを押して設定したいメニューに合わせ、もう一度「機能」キーを押して次の項目を選択します。
- 「-▼▲-変更」「戻る-完了」のような選択画面が出るまで「機能」キーを押します。
- 表示される説明を参考に「▼/▲」キーや「機能」キーを操作します。
- 「戻る」キーを押すと新しい設定を保持して一つ前の画面に戻り、「PTT」キーを押すと確定して待受画面に戻ります。

■ 拡張セットモード ※本文中で<拡張>と記載された機能の操作に必要です。

- 一度電源を切り、「機能」キーを押しながら電源を入れます。
- 「拡張設定有効?」と表示されたら「機能」キーを押します。
- セットモードに入ると「セットモード+」と表示されます。

※拡張セットモードを変更後に上記の操作を繰り返すと、設定を反映したまま通常セットモードの項目だけを表示します。

※リセット操作をすると拡張も含めて全てのセットモードを初期化します。

これ以降は「「機能」キーを押してセットモードに入り…」のような説明は省略して「セットモードのXX項目で〇〇して…」のように説明します。

ユーザーコード通信と秘話通信

ユーザーコード通信と32,767通りの秘話通信は、メーカーが異なっても通信できます。

■ ユーザーコード(UC)通信

ユーザーコード通信は、同じチャンネルにあわせていても、ユーザーコード(以下UC)が一致している人同士だけでしか通信できない方式です。通話したいグループのメンバー全員に同じUCを設定してください。

- 「セットモード」画面で「▼/▲」キーを操作して「通信設定」を選び、「機能」キーを押します。
- 「ユーザーコード」を選択し「機能」キーを押します。「オフ」または3桁の数字が表示されます。

- 「▼/▲」キーを操作して1桁目の数字を選択、「機能」キーを押すごとに桁が移動するので、任意の3桁の数字を選択します。
- 「戻る」キーを3回押すか「PTT」キーを押すと待受画面に戻り、設定したUCが表示されます。

※ユーザーコード画面で「戻る」キーを長押しするとUCをオフにできます。もう一度「戻る」キーを長押しすると元のUCに戻ります。

■ 秘話通信

秘話コードが一致した無線機間でのみ交信できる機能です。それ以外は「ギャラギャラ」音になり、通話内容を他人に聞かれません。

- セットモード「通信設定」の「秘話コード」を選び、「機能」キーを押します。
- 「オフ」または5桁の数字が表示されます。

- 「▼/▲」キーを操作して1桁目の数字を選択します。「機能」キーを押すごとに桁が移動するので任意の5桁の数字(32,767通り)を選択します。(左端5桁目は0～3、その他の桁は0～9を選択できます。)
- 「戻る」キーを3回押すか「PTT」キーを押すと待受画面に戻り、「オフ」以外の場合は「秘話」アイコンが表示されます。

※「秘話コード」画面で「戻る」キーを長押しすると秘話コードをオフにできます。もう一度「戻る」キーを長押しすると元の秘話コードに戻ります。

■ 強化秘話 ※他メーカーとの互換性はありません。

前述の秘話コードを強化した、アルインコDCR-PROシリーズ登録局だけが通話できる高度な秘話設定ができます。この強化秘話は標準秘話の32,767通りとは別に15通りの秘話タイプを追加することで、491,505通りの設定ができます。

- 前項を参照して秘話コードを設定します。続けて選択画面で「戻る」キーを押し、「▼/▲」キーで「秘話タイプ」を選び「機能」キーを押します。
- 「標準秘話」と表示されます。その場所で「▼/▲」キーを操作し、「強化秘話」01～15のいずれかを選び「PTT」キーを押して確定させます。

※通話グループ全員に同じ秘話タイプと秘話コードを設定します。UCも兼用できます。

個別通信

※事前の設定が必要です

セットモード「個別設定」の各項目を設定することで、交信相手を個人、グループ、全体と指定して呼び出すことができます。あらかじめ無線機1台ごとに自局IDやグループを設定する必要があります。手動でも操作・設定は可能ですが、無線機の数が多くなると設定や個体管理が面倒なので、通常はPC編集ソフトを使います。ここではあらかじめIDが登録されているときの呼び出し方法だけを説明します。

■ 呼び出し

- セットモードで「個別設定」の「個別通信動作」を選び、「▼/▲」キーを操作して「オン」に設定します。
- 「戻る」キーを押して「個別設定」メニューに戻り、「通信相手選択」を選びます。(初期設定：全局)
- 「個別001」のような選択画面で「機能」キーと「▼/▲」キーを操作して通話したい相手の自局IDを設定します。最後に「PTT」キーを押して確定させます。

- 選択画面での設定は点滅している表示を「▼/▲」キー操作で変更します。点滅する表示は「機能」キーを押すごとに切り替わります。
- ユーザーコード通信と個別通信では通信できません。どちらかの通話方式に統一してお使いください。
- 待受画面で「戻る」キーを押すごとに交信相手を個人、グループ、全体に切り替えることができます。

便利な機能(抜粋)

本機に搭載されている便利な機能の代表的なものです。ここに説明がないものは詳細説明書をご参照ください。

■ キーロック

誤操作でCHや設定が変わってしまうことを防げます。待受画面で「戻る」キーを長押しするとディスプレイに「**🔒**」アイコンが点灯します。キーロック中は「PTT」キー、「短縮」キーの一部、「緊急通報機能」、電源の入/切、音量の調整のみが可能です。もう一度「戻る」キーを長押しして「**🔒**」アイコンを消すと解除されます。

■ プライベートチャンネル

よく使うチャンネルへのショートカットです。セットモード「各種動作設定」の「短縮キー動作」を「プライベートCH」に設定します。次にセットモード「プライベートCH設定」メニューからショートカットしたいチャンネルを「▼/▲」キーで選択して待受画面に戻ります。「短縮」キーを長押しすると設定したプライベートチャンネルに移行して「P」アイコンが表示されます。もう一度、長押しすると元のCHに戻ります。

■ 受信音量一定化

送信者ごとに異なる声の大きさを同等のレベルに調整します。セットモード「受信設定」の「音量一定化」で設定できます。小声で聞き取りにくいケースが多ければ”小音増幅強”、大声で音が歪みがちなときは”大音抑制”にします。

■ 受信音質調整

受信音質を調節できます。セットモード「受信設定」の「低音域抑制」「高音域抑制」それぞれで、抑制レベルを調整できます。低音を抑制すると高めの音が、高音を抑制すると低めの音が強調されます。

■ ノイズキャンセル、ノイズ抑制<拡張>、トーン抑制<拡張>

送信音に入る音声以外のノイズを低減して、音声の明瞭度を上げます。セットモード「送信設定」の「ノイズキャンセル機能」は本体正面のマイクで受けた音声と本体下部に内蔵されているノイズ用マイクで受けた環境音を比較して、ノイズを軽減します。また「ノイズ抑制機能」はマイクの音声でデジタル処理してノイズを低減します。「トーン抑制機能」はサイレンのような一定周期で鳴る騒音を抑制します。「ノイズキャンセル機能」はレベル調整が可能で、「ノイズ抑制機能」と「トーン抑制機能」はオンオフの切り替えのみです。いずれもオフにすると解除できます。全ての騒音に対応するものではありません。効果を確かめながら設定してください。

■ 短縮キー動作

「短縮」キーを押したときの動作を選択できます。セットモードの「各種動作設定」の「短縮キー動作」で設定できます。オフにすると「短縮」キーを押しても短縮操作しません。

■ 送信出力

セットモード「送信設定」の「送信出力」で5W/2W/1W/受信のみに切り替えられます。受信のみを選択すると送信が禁止され、受信のみの運用となります。

■ 内部マイク感度/外部マイク感度

セットモード「送信設定」の「内部マイク感度」又は「外部マイク感度」で、本体内部マイクや外部マイクの感度を調整できます。通話相手から「声が小さい」と言われたら＋側、「大きい」と言われたら－側の数字を選びます。相手にモニターしてもらいながら、最適値を探します。

■ UC/秘話関連/送信出力をCHごとに個別設定<拡張>

ユーザーコード、秘話コード、秘話タイプ、送信出力の4項目を、チャンネルごとに個別設定したいときはセットモード「各種動作設定」の「CH通信設定」で「各CHで個別設定」を選択します。初期値は「全CHで共通設定」です。

ビジネスユーザー向けの機能

■ デュアルオペレーション<拡張>

メイン/サブ2つのチャンネルを交互に受信、送信するときは異なるキー操作で切り替えを行うことができます。

- 拡張セットモード「デュアルオペレーション」の「動作設定」を「オン」、「メインCH設定」と「サブCH設定」で任意のCH2つを選択して待受画面に戻ります。待受画面でCH01にした後、もう一度「▼」キーを押すとデュアルオペレーションとなり、受信を開始します。
- CH82とCH01の間に表示される専用CHを選択してください。CHが切り替わっているのが画面で確認できたら交互待受を開始しています。
- 受信終了後に動作再開する時間は「再開時間設定」、メインとサブの切替え時間は「CH切替間隔」で設定します。終了するときは「▼/▲」キー操作でCHを変更するか、「デュアルオペレーション」の「動作設定」をオフにします。

送信：メインCHは「PTT」キーを押して送信、サブCHは「短縮」キーを押して送信する。

■ 子機間通話禁止<拡張>

子機に設定すると、親機に設定された無線機としか通話ができず、親機以外の音声は聞こえなくなります。親機同士は通信できます。子機間で勝手な通話をして親局の統制が取れなくなることを防ぐものです。セットモード「通信設定」の拡張メニュー「親機子機切替」で親機が子機を設定します。親機・子機はそれぞれ複数台設定できます。解除するには全ての無線機を親機に設定してください。

ホビーユーザー向けの機能

デジタル簡易無線をホビーやレジャーでお使いのユーザーに人気の機能です。セットモードで操作します。周波数表示やSメーター表示をオンにすると一部の機能アイコンが表示されなくなります。表示がおかしいときは初期値に戻してください。（ ）内が初期値です。

■ セットモード「各種動作設定」

【上空用CH受信(オフ)】 上空用CH(S1～S15)を受信する機能<拡張>
設定値：オフ/オン

■ セットモード「表示設定」

【バックライトタイマー(5秒)】 バックライトを何秒後に消灯するかを変更
設定値：消灯/5秒/10秒/30秒/60秒/常灯

【コントラスト(8)】 ディスプレイの濃さを変更<拡張>
設定値：1～10

【CH非表示(オフ)】 液晶表示の内容が消えるまでの時間を変更
設定値：オフ/5秒/10秒/30秒/60秒

【周波数表示(オフ)】 CH番号の代わりに周波数を表示<拡張>
設定値：オフ/オン

【Sメーター表示(オフ)】 Sメーターを表示<拡張>
設定値：オフ/オン

【受信レベル表示(標準)】 アンテナマークとSメーターが反応する信号の種類を設定
「標準」はデジタル簡易無線の信号のみ、「拡張」はノイズを含めた全ての信号<拡張>

設定値：標準/拡張

■ スキャン

自動的にチャンネルを切り替えて通話の行われているチャンネルを探索することをスキャンと呼びます。セットモード「各種動作設定」の「短縮キー動作」でスキャンを設定しているときに、「短縮」キーを長押しすることでスキャンを開始します。信号を受信するとスキャンは自動で止まり、同じセットモードの「スキャンタイプ」で設定した条件で再開します。スキャン方向は「▼/▲」キーで変更できます。同じセットモードの「スキャンCH設定」でチャンネルごとにスキャンまたはスキップの設定ができます。

多数導入時の初期設定

■ エアクローン(DJ-DPS70E同士でないトクローンできません)

設定が済んだDJ-DPS70E(マスター機)の設定データを無線で、複数の個体(子機)に一度にクローンできます。子機はどんな設定でもマスター機のデータにクローンされます。

- 設定を済ませたマスター機と、子機全てで、本体の「機能」「▼」「戻る」キーの3つを同時に押したまま電源を入れ、機種名が表示されたら指を離します。画面に「[エアクローン] 短縮長押しで送信 [CH**]」と表示されます。
- 「▼/▲」キーでマスター機、子機とも同じCHの番号に合わせたらマスター機の「短縮」キーを長押しします。送信が始まり、マスター機は「データ送信中」、子機は「データ受信中」と、進行状態が表示されます。
- 終了するとマスター機は「データ送信完了」、子機は「データ受信完了」を表示してピー音が2回鳴動します。電源を入れなおして動作を確認します。

※クローン機にアンテナを接続すると混信を受けて、エラーになる可能性が高くなります。同じ机の上に並べてその前から送信する程度の距離であれば、クローン側のアンテナを外していてもエアクローンできます。

■ PCソフト(無料・PCケーブルERW-23又はERW-7とEDS-14が必要です)

「DCR 2G Clone Utility アルインコ ダウンロード」で検索して弊社HPから編集ソフトと説明書をダウンロードしてください。CHや機能の設定値をPCで編集できます。製造番号や個別名称をつけてデータを保存すれば個別呼び出しのIDなどの個体管理が簡単にできます。

故障とお考えになる前に

「故障かな?」と思われたら、まず以下の表をお読みください。マイク類や電池類などが原因の不具合もありますので、必ずアクセサリも点検してください。設定の間違いなどはリセットをすると回復する場合がありますが、意図した設定まで初期化されるので注意が必要です。

症状	原因	処置
電源を入れてもディスプレイに何も表示されない	バッテリーパックが接触不良を起こしている	端子の汚れを清潔で乾いた布や綿棒で拭って取り除く
スピーカーから音が出ないⅤ	バッテリー残量が減っている	バッテリーパックを充電する
受信できないⅤ	音量が低すぎる	適切な音量に設定する
「ギャラギャラ」音が聞こえる	「PTT」キーが押され、送信状態になっていない	「PTT」キーを離す
受信中に表示が点滅したり消えたりする	秘話コードが一致していない	秘話コードを一致させる、もしくは送信側と受信側の「秘話」キーをOFFにする
送信ができないⅤ	バッテリー残量が減っている	バッテリーパックを充電する
送信しても応答がない	「PTT」キーが確実に押されていない	「PTT」キーを押して、インジケーターを赤色に点灯させてから送信する
送信ができないⅤ	チャンネル(周波数)や通信設定が間違っている	相手局と通信可能なチャンネル・設定に正しく合わせる
別のユーザーがチャンネルを使用している	信号がなくなるのを待ってから送信する	
出力が低く、相手に届いていない		送信出力を今の設定よりも大きくする
送信ができないⅤ送信すると、表示が点滅したり消えたりする	バッテリー残量が減っている	バッテリーパックを充電する
キーによる操作ができない	キーロックが設定されている	キーロックの設定を解除する
	プライベートチャンネルになっている	短縮キー動作のプライベートCH 機能を使い、元のチャンネルに戻る
表示が異常になっている	CPU が誤作動している	リセットする
充電しない	充電端子が汚れている	充電端子の汚れを乾いた布で拭き取る
充電スタンドのランプが赤色に点滅する	充電スタンドの保護回路が働いている	バッテリーパック単体で充電する、もしくは充電時、無線機の電源を切る

リセット

電源を切り、「短縮」キーと「戻る」キーを押したまま電源を入れます。「RESET」が表示されたら「機能」キーを押します。拡張セットモード、録音データ、ショートメッセージを含むすべての設定が初期化されます。

※販売店によって納入前に各設定がプログラミングされているときは、リセットが禁止されていることがあります。

オプション(抜粋)

□EME-32A カナル型イヤホンマイク(PTTロック付)
□EME-48A 耳かけ型イヤホンマイク(PTTロック付)
□EMS-62 IP54相当スピーカーマイク
□EA-248 ロングアンテナ
□EHC-70 ハードケース

※本書に記載されているオプションは一部です。他のオプションについて詳細説明書を参照ください。

定格

送受信周波数	351.200000 ～ 351.631250MHz (CH1 ～ CH70) 351.031250 ～ 351.100000MHz (CH71 ～ CH82)
受信専用周波数	351.106250 ～ 351.193750MHz (上空用チャンネルS6 ～ S15、S1 ～ S5)
電波型式	F1C,F1D,F1E,F1F
アンテナインピーダンス	50 Ω
定格電圧	7.2V
消費電流	2.0A 以下(送信時：5W) 1.2A 以下(送信時：2W) 0.9A 以下(送信時：1W) 500mA 以下(受信時),130mA 以下(待受時)
外形寸法（突起物除く）	55.8 × 95.8 × 32.5mm EBP-198 装着時 55.8 × 95.8 × 40.7mm EBP-199 装着時
質量(ミドルアンテナ装着時)	約 244g(EBP-198 装着時) 約 266g(EBP-199 装着時)
使用温度範囲	－ 20℃～＋ 60℃
充電温度範囲	0℃～＋ 45℃
送信出力	5W/2W/1W(偏差：＋ 20%、－ 50%)
変調方式	4 値 FSK
受信感度	－ 5dBμV EMF 以下 (BER1 × 10 ^{−2})
低周波出力（10%歪時）	700mW 以上

- 仕様、定格は予告なく変更することがあります。
- 本書の説明用イラストは実物と実態や形状が異なったり、一部の商品を表示している場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。
- 乱丁、落丁はお取り替えいたします。